

論 說 報 告

第28卷第8號 昭和17年8月

一圓孔を持ち、縁上に等分布荷重を受ける半無限板の應力

正會員 村 上 正*

梗 概 本文は、1つの圓孔をもつ半無限板が、その線上に有限長の等分布荷重を受ける場合につき、2.極座標を用ひて、その應力解析を試みたものである。但し、直線線は、これを水平に置き、荷重は圓孔の中心を通る鉛直線に對して、對稱に加はる場合を取扱つた。

1. 緒 言

1つの圓孔を持つ半無限板に關する問題は、Jeffery が示した如く⁽¹⁾、2極座標を用ふることによつて手際よく處理することができるのであつて、孔周に壓力が働く場合⁽²⁾、板が引張力を受ける場合⁽³⁾、縁全體に等分布荷重が作用する場合⁽⁴⁾ 等種々の場合の外に、板の質量に働く力 (body force) を考へた場合^{(5), (6)} にも解かれてゐる。

本文は、縦線上に有限長の等分布荷重が加へる場合についての解法であつて、問題を次の範囲に限定してゐる。

直線を水平に置き、荷重は圓孔の中心を通る鉛直線に對して左右對稱に加へる。

解法の要領は、² 極座標を用ひ、直線縁及圓孔周囲の境界條件を満足する様に應力函數の形を定め、それによつて分應力の式を導かんとするものである。

2. 2 極 座 標

2 極座標 (α, β) は次式によつて定義される。

或は、この逆函数をとれば、

$$z = ia \frac{e^w + 1}{e^w - 1} = ia \coth \frac{w}{2} \quad \dots \dots \dots \quad (2)$$

茲に, $w = \alpha + i\beta$, $z = x + iy$ で, a は一つの定数である。

(1) 式に於いて、實部及虛部を分離すると、

$$\alpha = \frac{1}{2} \log_e \frac{x^2 + (y+a)^2}{x^2 + (y-a)^2} = \log_e \frac{r_2}{r_1} \quad \left. \begin{array}{l} \\ \beta = \tan^{-1} \frac{y+a}{x} - \tan^{-1} \frac{y-a}{x} = \theta_2 - \theta_1 \end{array} \right\} \dots \dots \dots \quad (3)$$

* 九州帝國大學助教授

(1), (2), (3) Jeffery: Plane Stress and Plane Strain in Bipolar Coordinates.—Phil. Trans. of the Roy. Soc. of London, Series A, vol. 221, 1921.

(4) 久野重一郎：「圓形無捲立坑道に及ぼす外部荷重の影響——土木學會誌、第 15 卷、第 8 號、昭和 4 年」

(5) 安藏善之輔：水平表面に接して一圓形孔を持つ重力體中の應力に就いて—九大工學部彙報，第12卷，昭和12年。

(6) Mindlin: Stress Distribution Around a Tunnel—Proc. Am. Soc. of C.E., Apr. 1920.

又、(2) 式の虚實兩部を分離すれば、

(3) 又は (4) 式によつて、2 極座標の構造が示される(圖-1)。即ち、 α -曲線は z 平面に於て、 y 軸上に中心をもち、半径が $a \csc \alpha$ なる圓である。この圓は α の正負に従つて夫々 x 軸より下又は上の半平面内に存在し、 x 軸を切ることがない。而して、特別な場合として、 $\alpha=0$ は x 軸を示し、 $\alpha=+\infty$ 及 $-\infty$ は夫々定點 $O_1(0, a)$ 及 $O_2(0, -a)$ を示す。

次に、 β -曲線は、 Z 平面上に於て、 x 軸上に中心を有し點 O_1, O_2 を通る圓弧であつて、 α -曲線を直角に切る。そして、 β が正又は負（但し $0 \leq |\beta| \leq \pi$ とする）なるに従つて、夫々 y 軸より右又は左の圓弧を示す。その中で $\beta=0$ は y 軸の $\overline{O_1O_2}$ を除く部分に對應し、 $\beta=\pm\pi$ は y 軸の $\overline{O_1O_2}$ なる部分に對應する。更に $\beta=\pm\pi/2$ は原點を中心として $\overline{O_1O_2}$ を直徑とする圓弧を示してゐる。

圖-1. 2 極 座 標

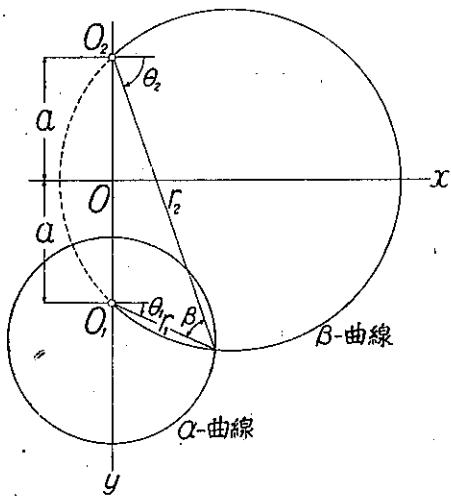
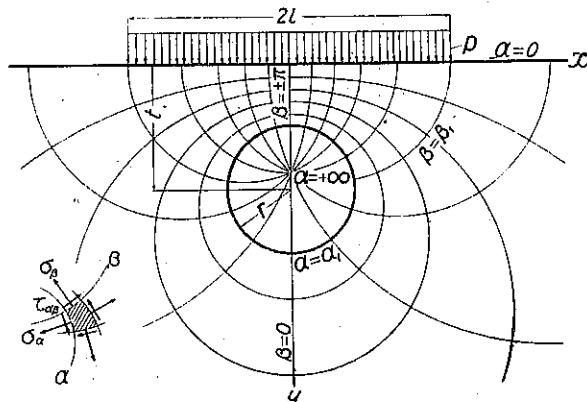


圖-2. 境界の表示



斯くして、直線縁を α 軸に一致せしめ、孔の中心を通り板の内部へ向つて β 軸を引けば、(1) なる 2 極座標を採用し、 $\alpha \geq 0$ と定めることによつて都合よく板の境界を表示できる譯である。即ち、本問題の場合には、直線縁は $\alpha=0$ によつて表はされる。又、 $\alpha=\alpha_1$ によつて孔の圓周を表はすことすれば、その半径 r は $r=a \cosh \alpha_1$ で與へられ、孔の中心から直線縁までの距離 t (これを孔距と名づける) は、 $t=a \coth \alpha_1$ で示される。而して、縁上に加はる荷重の長さを $2l$ とすると、その両端の座標は、 $\alpha=0$ 、 $\beta=\pm \frac{1}{2} \tan^{-1}(a/l)$ となる。 圖-2 は境界の表示法を示してある。

3. 應力函數

板の質量に働く力は存在しないものとし、 F を Airy の応力函数とすれば、分應力式は x, y 座標に関して、

にて與へられる。但し、 F は次の微分方程式を満足せねばならぬ。

(6) 式を 2 極座標で表はすに當つて Jeffery は F の代りに hf を考へて、常係數の線形微分方程式を導き、以て解法を容易ならしめた。即ち、(6) 式の代りに

$$\left(\frac{\partial^4}{\partial \alpha^4} + 2 \frac{\partial^4}{\partial \alpha^2 \partial \beta^2} + \frac{\partial^4}{\partial \beta^4} - 2 \frac{\partial^2}{\partial \chi^2} + 2 \frac{\partial^2}{\partial \beta^2} + 1 \right) F_6 = 0 \quad \dots \dots \dots \quad (7)$$

但し、 $F_0 = hF$ 、 h は寫像拡大率であつて

α, β 座標に関する分應力式は、

$$\left. \begin{aligned} a\sigma_\alpha &= \left\{ (\cosh \alpha - \cos \beta) \frac{\partial^2}{\partial \beta^2} - \sinh \alpha \frac{\partial}{\partial \alpha} - \sin \beta \frac{\partial}{\partial \beta} + \cosh \alpha \right\} F_0 \\ a\sigma_\beta &= \left\{ (\cosh \alpha - \cos \beta) \frac{\partial^2}{\partial \alpha^2} - \sinh \alpha \frac{\partial}{\partial \alpha} - \sin \beta \frac{\partial}{\partial \beta} + \cos \beta \right\} F_0 \\ a\tau_{\alpha\beta} &= -(\cosh \alpha - \cos \beta) \frac{\partial^2 F_0}{\partial \alpha \partial \beta} \end{aligned} \right\} \quad \dots \dots \dots \quad (9)$$

本問題に適合するものとして、(7) の一般解を次の様にとる。

$$\left. \begin{aligned} F_0 &= B_0 \cosh(\alpha - \cos \beta) + \sum_{n=1}^{\infty} \psi_n(\alpha) \cos n\beta \\ \psi_n(\alpha) &= A_n \cosh((n+1)\alpha) + B_n \cosh((n-1)\alpha) \\ &\quad + C_n \sinh((n+1)\alpha) + D_n \sinh((n-1)\alpha) \end{aligned} \right\} \dots \dots \dots \quad (10)$$

(10) 式を (8) 式に入れれば、次の分極力式が得られる。

$$2a\sigma_a = -2B_0(\cosh \alpha - \cos \beta) \sinh \alpha + 2\psi_1(\alpha) + \sum_{n=1}^{\infty} [(n+1)(n+2)\psi_{n+1}(\alpha) - 2(n-1)(n+1) \cosh \alpha \psi_n(\alpha) + (n-1)(n-2)\psi_{n-1}(\alpha) - 2 \sinh \alpha \psi'_n(\alpha)] \cos n\beta \quad \dots \quad (11)$$

$$2\alpha\sigma\beta = 2B_0(\cosh\alpha - \cos\beta)\sinh\alpha + 2\psi_1(\alpha) - \psi''_1(\alpha) + \sum_{n=1}^{\infty} \{ (n+2) \psi_{n+1}(\alpha) - (n-2) \psi_{n-1}(\alpha) - 2\sinh\alpha \psi'_n(\alpha) - \psi''_{n+1}(\alpha) + 2\cosh\alpha \psi''_n(\alpha) - \psi''_{n-1}(\alpha) \} \cos n\beta \quad (12)$$

$$2a\tau_{\alpha\beta} = -2B_0(\cosh \alpha - \cos \beta) \sin \beta$$

$$-\sum_{n=1}^{\infty} \{(n+1)\psi'_{n+1}(\alpha) - 2n \cosh \alpha \psi'_n(\alpha) + (n-1)\psi'_{n-1}(\alpha)\} \sin n\beta \dots \dots \dots \quad (18)$$

但し、これらの式中の定数は尙未定である。

4. 荷重の級数表示

荷重の右端の β 座標を β_1 とすれば、

荷重を β の函数として Fourier 級數で表はすため、これを $P(\beta)$ と書けば、

$0 \leq \beta < \beta_1$ ($\infty \geq x > l$) に於て $P(\beta) = 0$

$$\beta_1 < \beta \leq \pi \quad (l > x \geq 0) \quad \therefore \quad P(\beta) = p$$

而して、荷重は y 軸に關して對稱であるから、次の式が得られる。

境界に於ける應力の値は、

(11) 及 (13) 式の σ_a 及 τ_{ab} が夫々 (16) の境界條件を満足するやうに、定數 A, B, C 及 D を決定すれば、求める解式が得られる譯である。

5. 定数の決定

定数 A, B, C 及 D を決定するには、(16) 式の 4 つの条件を用ふる。

1) 先づ直線縁に於ける $\tau_{\alpha\beta}$ の條件 $[\tau_{\alpha\beta}]_{\alpha=0}=0$ より次の式が出る。

解法を容易ならしめるために、(17) 式に於いて、次の様な假定を設ける。

この假定の結果として、(17) の各式より、

2) 次に直線縁に於ける σ_α の條件 $[\sigma_\alpha]_{\alpha=0} = -P(\beta)$ より次の諸式が得られる。

$$n=1 \quad \quad \quad 2 \cdot 3 \psi_2(0) = \frac{4\pi p}{\pi} \sin \beta_1 = q_1$$

$$n=2 \quad \quad \quad 3 \cdot 4 \psi_0(0) - 2(1,3)\phi_2(0) = \frac{4ap \sin 2\beta_1}{\pi} = \frac{q_2}{2}$$

$$n=3 \quad \text{and} \quad 4 \cdot 5 \psi_4(0) - 2 \cdot 2 \cdot 4 \phi_3(0) - 2 \cdot 1 \psi_2(0) = \frac{4ap \sin 3\beta_1}{\pi} = \frac{q_3}{3}$$

一般に

$$(n+1)(n+2)\psi_{n+1}(0) - 2(n-1)(n+1)\psi_n(0) + (n-1)(n-2)\psi_{n-1}(0)$$

$$= \frac{4ap \sin n\beta_1}{\pi} = \frac{qn}{n}$$

(21) の各式の分母を拠つた後、邊々相加ふれば、

$$n(n+1)(n+2)\psi_{n+1}(0) - (n-1)n(n+1)\psi_n(0) = \sum_{r=1}^n q_r$$

この式に於て、

$n=1$ と置けば $1 \cdot 2 \cdot 3 \psi_1(0) = q_1$

$$\begin{aligned} n=2 & \quad 2 \cdot 3 \cdot 4 \psi_1(0) - 1 \cdot 2 \cdot 3 \psi_2(0) = q_1 + q_2 \\ n=3 & \quad 3 \cdot 4 \cdot 5 \psi_3(0) - 2 \cdot 3 \cdot 4 \psi_4(0) = q_1 + q_2 + q_3 \\ & \dots \dots \dots \end{aligned}$$

$$\text{一般に } n(n+1)(n+2)\psi_{n+1}(0) - (n-1)n(n+1)\psi_n(0) = q_1 + q_2 + q_3 + \dots + q_n$$

これらの式を邊々相加へて結局次の式が導かれる。

$$n(n+1)(n+2)\psi_{n+1}(0) = \sum_{r=1}^n (n-r+1)q_r, \quad n \geq 1$$

この式は次の様に書き換へてよい。

$$n(n^2-1)\psi_n(0) = \sum_{r=1}^{n-1} (n-r)q_r, \quad n \geq 2 \quad \dots \dots \dots \quad (22)$$

3) 更に又、圓孔周囲の $\tau_{\alpha\beta}$ の條件 $[\tau_{\alpha\beta}]_{\alpha=\alpha_1} = 0$ より次の式を得る。

$$\left. \begin{aligned} n=1 & \quad 2\psi'_2(\alpha_1) - 2 \cosh \alpha_1 \{\psi'_1(\alpha_1) - B_0\} = 0 \\ n=2 & \quad 3\psi'_3(\alpha_1) - 2 \cdot 2 \cosh \alpha_1 \psi'_2(\alpha_1) + \psi'_1(\alpha_1) - B_0 = 0 \\ n=3 & \quad 4\psi'_4(\alpha_1) - 2 \cdot 3 \cosh \alpha_1 \psi'_3(\alpha_1) + 2\psi'_2(\alpha_1) = 0 \\ n=4 & \quad 5\psi'_5(\alpha_1) - 2 \cdot 4 \cosh \alpha_1 \psi'_4(\alpha_1) + 3\psi'_3(\alpha_1) = 0 \\ & \dots \dots \dots \end{aligned} \right\} \quad (23)$$

こゝに於て、解法の便宜上

$$\psi'_1(\alpha_1) = B_0 \quad \dots \dots \dots \quad (24)$$

と假定すれば、(23) の第 1, 第 2, \dots 式より、次の結果が得られる。

$$\psi'_2(\alpha_1) = \psi'_3(\alpha_1) = \psi'_4(\alpha_1) = \dots = \psi'_n(\alpha_1) = \dots = 0 \quad \dots \dots \dots \quad (25)$$

4) 最後に圓孔周囲の σ_a の條件 $[\sigma_a]_{\alpha=\alpha_1} = 0$ より

$$n=0 \text{ に對して } 2\psi_1(\alpha_1) = B_0 \sinh 2\alpha_1 \quad \dots \dots \dots \quad (26)$$

$$\left. \begin{aligned} n=1 & \quad 2 \cdot 3 \psi_2(\alpha_1) = 2 \sinh \alpha_1 \{\psi'_1(\alpha_1) - B_0\} = 0 \\ n=2 & \quad 3 \cdot 4 \psi_3(\alpha_1) - 2(1 \cdot 3) \cosh \alpha_1 \psi_2(\alpha_1) = 0 \\ n=3 & \quad 4 \cdot 5 \psi_4(\alpha_1) - 2(2 \cdot 4) \cosh \alpha_1 \psi_3(\alpha_1) + 1 \cdot 2 \psi_2(\alpha_1) = 0 \\ & \dots \dots \dots \end{aligned} \right\} \quad (27)$$

$$\begin{aligned} \text{一般に } & (n+1)(n+2)\psi_{n+1}(\alpha_1) - 2(n-1)(n+1) \cosh \alpha_1 \psi_n(\alpha_1) \\ & + (n-2)(n-1)\psi_{n-1}(\alpha_1) = 0 \end{aligned} \quad \dots \dots \dots$$

(27) の第 1 式より $\psi_2(\alpha_1) = 0$ 、第 2 式へこれを代入して $\psi_n(\alpha_1) = 0$ を得る。この 2 つを第 3 式へ入れれば $\psi_4(\alpha_1) = 0$ が出来る。順次斯の如くして結局

$$\psi_2(\alpha_1) = \psi_3(\alpha_1) = \psi_4(\alpha_1) = \dots = \psi_n(\alpha_1) = \dots = 0 \quad \dots \dots \dots \quad (28)$$

5) 以上に求めた式 (18), (19), (20), (22), (24), (25), (26) 及 (28) より定數 A, B, C 及 D を計算する。これらの式をこゝに纏めて記せば、

$$\left. \begin{aligned} (i) \quad & \left\{ \begin{array}{l} B_0 = 2C_1 \quad \dots \dots \dots \quad (18) \\ A_1 + B_1 = -\frac{q_0}{\pi}(\pi - \beta_1) = -q_0 \quad \dots \dots \dots \quad (20) \\ 2A_1 \sinh 2\alpha_1 + 2C_1 \cosh 2\alpha_1 = B_0 \quad \dots \dots \dots \quad (24) \\ A_1 \cosh 2\alpha_1 + B_1 + C_1 \sinh 2\alpha_1 = \frac{B_0}{2} \sinh 2\alpha_1, \quad \dots \dots \dots \quad (26) \end{array} \right. \end{aligned} \right.$$

$n \geq 2$ の場合には、

(i) の 4 つの式から

$$\left. \begin{aligned} B_0 &= 2C_1 \\ C_1 &= -\frac{\cosh \alpha_1}{2 \sinh^2 \alpha_1} q_0 \\ A_1 &= \frac{q_0}{2 \sinh^2 \alpha_1} \\ B_1 &= -\frac{\cosh 2\alpha_1}{2 \sinh^2 \alpha_1} q_0 \end{aligned} \right\} \quad (29)$$

$n \geq 2$ の場合には (ii) の 4 つの式をといて、

$$\left. \begin{aligned} A_n &= -\frac{\sinh^2 n\alpha_1 + n \sinh^2 \alpha_1}{2n(n+1)(\sinh^2 n\alpha_1 - n^2 \sinh^2 \alpha_1)} s_n, \\ B_n &= \frac{s_n}{n(n^2-1)} - A_n \\ C_n &= \frac{\sinh n\alpha_1 \cosh n\alpha_1 + n \sinh \alpha_1 \cosh \alpha_1}{2n(n+1)(\sinh^2 n\alpha_1 - n^2 \sinh^2 \alpha_1)} s_n \\ D_n &= -\frac{n+1}{n-1} C_n \end{aligned} \right\} \quad (30)$$

卷之二

$$s_n = \frac{4ap^{n-1}}{\pi} \sum_{r=1}^n (n-r) \sin r\beta_1$$

斯くて決定された定数を(10)式に入れれば、應力函数 Π_0 が確定する。即ち、

中武

$$G_n = \sinh^2 n\alpha_1 - n^2 \sinh^2 \alpha_1$$

$$K_n = n \sinh \varphi_1 \{ n \sinh (\alpha_1 - \alpha) \cosh n\alpha + \cosh (\alpha_1 - \alpha) \sinh n\alpha \} \\ - \sinh n\alpha_1 \{ n \cosh n(\alpha_1 - \alpha) \sinh \alpha + \sinh n(\alpha_1 - \alpha) \cosh \alpha \}$$

6. 計 算 例

孔距が圓孔半径の 2 倍 ($t=2r$) 及 4 倍 ($t=4r$) の場合について、孔周及直線縁に現はれる應力 (σ_B) を計算した結果を夫々、図-3 及図-4 に示す。比較に便なるやうに、孔徑、荷重の長さ、並にその強度は相等しく定めた。

實際には、(30) 式のまゝでは、 α_1 が大きくなり限界級數の收斂が緩慢で不便であるから、これを次のやうに變

形する。

$$\begin{aligned} A_n &= -\frac{s_n}{2n(n+1)G_n} \{ G_n + n(n+1) \sinh^2 \alpha_1 \} \\ &= -\frac{s_n}{2} \left\{ \frac{1}{n(n+1)} + \frac{\sinh^2 \alpha_1}{G_n} \right\} \quad \dots \dots \dots \quad (32) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} C_n &= \frac{s_n}{2n(n+1)G_n} (G_n + \sinh n\alpha_1 \cosh n\alpha_1 + n \sinh \alpha_1 \cosh \alpha_1 - G_n) \\ &= \frac{s_n}{2} \left\{ \frac{1}{n(n+1)} + \frac{1 - e^{-2n\alpha_1}}{2n(n+1)G_n} + \frac{(n \sinh \alpha_1 + \cosh \alpha_1) \sin \alpha_1}{(n+1)G_n} \right\} \quad \dots \dots \dots \quad (33) \end{aligned}$$

この様にして計算するとき、有效数字 4 柄を保存するものとして、 $t=2r$ の場合は第 7 項まで、 $t=4r$ の場合は第 5 項まで取つて充分満足な結果が得られる。この點より推して、さきに用ひた (18) 及 (24) 式の假定は、無理のないものであると云へる。

図-3, 4 より判断して言ひ得ることは、

図-3. $t=2r$ の場合の應力圖

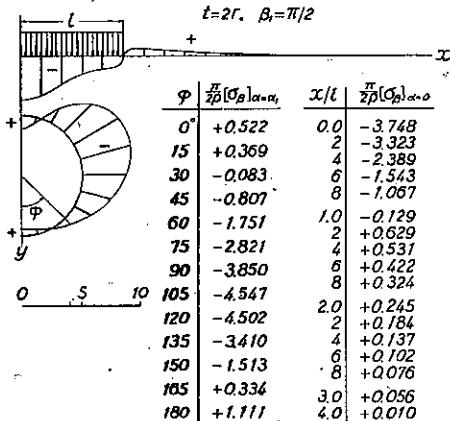
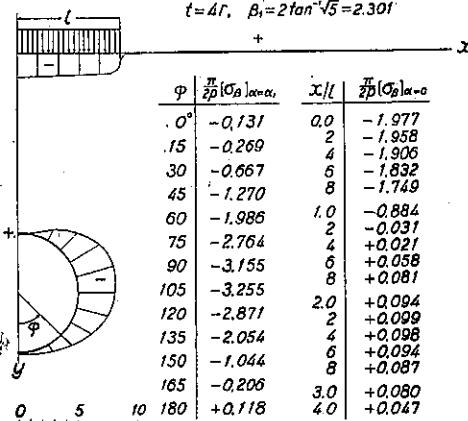


図-4. $t=4r$ の場合の應力圖



第 1：一般に孔距が小なる間は、孔周の大部分は壓縮應力を受けてゐるが、上線 ($\phi=180^\circ$) 及下線 ($\phi=0^\circ$) の附近に引張應力が作用してゐる。孔距が大となるに従つて、この引張應力は小さくなる傾向をもち、 t が $4r$ よりも更に大きくなれば遂に消滅するものと思はれる。殊に、下線に現はれる引張應力は、 $t=4r$ の場合には既に消滅してゐることが認められる。尙、最大壓縮壓力は大體 $\phi=105^\circ$ の附近に出てゐる。

第 2：直線縁では、荷重の下に壓縮應力が働らき、荷重を僅か離れた所で引張應力に變ずる。その大きさは、壓縮應力に比べれば遙かに小さく、荷重を遠ざかるに従つて漸次 0 に近づく。

7. 一、二の特別な場合

(31) 式に於て、 $\beta_1=0$ と置けば、線全體に等分布荷重をうける場合となる。

$$\begin{aligned} F_0 &= -ap[\alpha(\cosh \alpha - \cos \beta) \cosh \alpha_1 \\ &\quad + \{\cosh(\alpha_1 - \alpha) \sinh \alpha + \sinh^2 \alpha_1\} \cos \beta] \operatorname{csch}^2 \alpha_1 \quad \dots \dots \dots \quad (34) \end{aligned}$$

これは、既に、久野先生が示された式と一致してゐる。又、 $\alpha_1=\infty$ とおけば、孔のない場合の應力函数が導か

れる。式は餘程簡単になつて

$$F_0 = -\frac{ap}{\pi}(\pi - \beta_1) \cos \beta + \frac{4ap}{\pi} \sum_{n=2}^{\infty} \frac{e^{-na}}{n(n^2-1)} (n \sinh \alpha + \cosh \alpha) \sum_{r=1}^{n-1} (n-r) \sin r \beta_1 \cos n \beta \quad (35)$$

本式に於て、更に、 $\beta_1=0$ とおけば、孔のない半無限板の縁全體に等分布荷重が働く場合に對する應力函数となる。

附 記一. 本文の結果を利用して、水平な地表面に近く穿たれた圓形無捲立トンネルの直上に加重(surcharge)が存在する様な場合を處理することができる。但し、その際には、板を重力體と見做して、質量力(body force)の影響を見込みなければならないが、それについては、既に、安藤先生、並に、Mindlinによつて解法が示されてゐる。

附記一、本文を読むに當つて、有益なる御助言を忝うしたる、安藤、久野兩先生に、謹んで御禮を申上げます。